

## 腹膜周辺組織におけるサイトカイン産生量の測定と術後成績との関連 ー腹腔鏡下手術と開腹手術の比較ー

### 1. 研究の対象

平成 23 年 2 月～平成 28 年 6 月までの間に、「腹膜における癒着誘発に関連するサイトカイン産生量に関する検討ー腹腔鏡下手術と開腹手術の比較ー」の研究に同意を頂き、大腸切除を受けられた方約 300 名

### 2. 研究目的・方法

胃や腸の手術では、癒着が生じ腸閉塞となることがあります。癒着の原因として、腸管や腸間膜あるいは腹壁に存在する腹膜から産生される物質（サイトカイン）が関係しているといわれておりますが、これらのサイトカインは癌細胞を活性化する働きも有しており、癌の再発に影響している可能性も否定できません。しかし、腹膜で産生されるサイトカインの量およびその意義については、未だ詳しく研究されておられません。

これまでに防衛医科大学校外科学講座では、倫理委員会の承認を得て、腹膜周辺組織におけるサイトカイン産生量の測定と術後の腸閉塞発症との関連について研究を行ってまいりました。すでに多くの方の協力を得て研究をすすめているところでありますが、今後この研究を癌の再発の領域にも広げたいと考えております。すなわち、平成 23 年 2 月～平成 28 年 6 月までの間に、「腹膜における癒着誘発に関連するサイトカイン産生量に関する検討ー腹腔鏡下手術と開腹手術の比較ー」の研究に同意を頂き、大腸切除を受けられた方約 300 名の、腹膜・ドレーン排液・血液および臨床情報（治療前後の採血結果・術前診断・手術の内容、病理結果、手術後の経過、手術後の治療内容等）を使用し、腸閉塞のみでなく癌の再発との関連についての研究を企画いたしました。腹膜組織中の TGFβ(transforming growth factorβ)、FGF (fibroblast growth factor)、HGF(Hepatocyte growth factor)、TNFα(tumor necrosis factorα)などの mRNA 量を測定するとともに、ドレーンからの排液および診療のために採取された血液の残余を使用しサイトカイン濃度を測定、サイトカイン産生量と腸閉塞や癌再発との関連について解析いたします。研究期間は平成 36 年 3 月までです。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることではなく、すでに採取された腹膜・ドレーン排液・血液、および外来・入院治療での臨床情報（治療前後の採血結果・術前診断・手術の内容、病理結果、手術後の経過、手術後の治療内容等）のみを用いる研究です。

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

防衛医科大学校病院 外科 神藤 英二

TEL:04-2995-1511 (内線 2356)

研究責任者：

防衛医科大学校外科 上野 秀樹